





<資料5-2>





令和5年度 藤枝市行政サービス評価委員会

地方創生事業（デジタル田園都市国家構想交付金（推進タイプ））事業評価シート





令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	1
事業名	革新的人材育成事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなぐ若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	3,000,000	うち交付金充当額(円)	1,500,000	
事業目的	<p>変革する社会において新しい価値を創造する力や地域への貢献意識を持つ人材を育成し、地元企業へ輩出することで、地域産業の活性化と若者の地元定着を図る。</p> <p>本事業を履修した学生が、後輩の学生を指導する側として携わることにより、地域の学生が地域の学生を育てる風土を醸成する。</p>							 <p>アカデミック講座</p>  <p>キャリアデザイン講座</p>	
事業概要	<p>静岡産業大学が実施する、以下の人材育成事業に対し支援した。</p> <p>【講座内容】 「アカデミック(発想力・論理的思考力)」「キャリアデザイン(キャリア意識向上・企画力)」「グローバル(英語コミュニケーション力)」の3点を学びの柱に据えた人材育成講座</p> <p>【実施時期】 令和4年4月～令和5年2月(延べ83回)</p> <p>【参加者】 産大、理工科大、常葉大の1、2、3年生 計50名</p>							 <p>グローバル講座</p>  <p>参加学生がビジネスコンテストにエントリーし、入賞</p>	
事業経費内訳	<p>■補助金3,000,000円</p> <p>(学校法人新静岡学園 静岡産業大学 補助率10/10)</p>								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							1: KPIの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1: 効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							2: 地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	参加学生の思考力やリーダーシップ、レジリエンス等について外部アセスメントテスト(GPSアカデミック)を使い成長度を数値化した結果、ほぼ全ての学生で成長が見られ、大学1年生の思考力総合得点の平均が40得点前後であったことや参加学生がビジネスコンテストで入賞するなど、学生の企画力や発想力等の向上に寄与した。				今後の方針		当該事業に係る補助は終了するが、引き続き静岡産業大学をはじめとした包括連携協定締結大学と協力し、継続的な人材育成に努めていく。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	2
事業名	未来型スキル教育支援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	産業政策課			宮崎 真一	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	7,000,000	うち交付金充当額(円)	3,500,000	
事業目的	市内企業の業務効率化や成長・発展に寄与し、市内産業の活性化を図ることを目的に、企業に求められるICTスキルを有する人材を育成する。								
事業概要	<p>ICTスキルを有する人材を育成することを目的とした研修プログラムを実施する藤枝ICTコンソーシアムに対して補助金を交付する事業。</p> <p>就業に役立つICTの活用や情報ビジネススキルの取得を目的に未来型ワーク・ゼミ生を募集し、専用SNSを活用したオンデマンド講座や演習、地元企業との交流を兼ねた未来型スキル勉強会等を通じて、就労につながるスキルやキャリアのアップを支援した。</p> <p>【参加者】未来型ワークゼミ27名、勉強会20名</p>								
事業経費内訳	<p>補助金：7,000,000円</p> <p>(交付先：藤枝ICTコンソーシアム 補助率10/10)</p>								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							3：KPIの達成にあまり有効ではなかった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							3：地方創生に効果があった	
事業の評価	就業に役立つICTの活用や情報ビジネススキルの学びの場に加え、参加者専用のSNSを活用した地元企業との交流の場を提供したことにより、16名が最終的にマッチングに繋がった。一方で、未来型ワークゼミにおいて27名のうち9名が学業や仕事、家庭の事情等を理由に離脱したことを考慮すると、開催方法やカリキュラムの組み直しの検討が必要である。			今後の方針			企業からデジタル化・DX化を望む声を多く受けているため、3年間実施した未来型スキル教育支援事業をボトムアップし、地元企業の社員を対象とした業務の改善や効率化を推進する人材の育成、リスキリング（デジタル技術の学び直し）やリカレント教育によるキャリアの再形成、女性や学生等の新たなデジタル人材の育成等、デジタル技術を習得するプログラムを提供し、地域DXを牽引するデジタル人材の育成に取り組む。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	3
事業名	社会人リカレント教育事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年9月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	996,600	うち交付金充当額(円)	498,300	
事業目的	<p>自己の成長のために学び直しを求める社会人や、新たに就業を希望する者（育児で仕事から離れている女性や高齢者を含む）を対象に、ビジネスでの専門知識やスキルを身に付けるための教育を提供することで、地域企業の新たな労働力確保及び経営（事業承継）を担うことができる人材を育成し、地域産業の活性化を図る。</p>							 <p>開学式の様子</p>  <p>第1回講義</p>	
事業概要	<p>令和4年度に開学した「藤枝市民大学」の「リカレント教育コース」として再構築し、静岡産業大学と連携して実施した。</p> <p>【講座内容】 「基礎講座」6講座 「専門講座」6講座</p> <p>【実施時期】 令和4年9月～令和5年1月（計12回）</p> <p>【参加者数】 延べ111名</p>							 <p>交流会の様子</p>  <p>オープンバッジ発行</p>	
事業経費内訳	<p>■委託料996,600円 (学校法人新静岡学園 静岡産業大学)</p>								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。							1：K P Iの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	<p>受講者アンケートを実施した結果、講義内容について全講座平均で「良かった」「大変良かった」が87%を占め、受講者に好評であった。また修了者に対し、「学習歴のデジタル証明（オープンバッジ）」を国内自治体で初めて発行し、市民のキャリアアップ支援につながった。一方で、受講者間の交流を望む声が寄せられたため、より参加者のニーズに即した内容としていく必要がある。</p>			今後の方針		<p>藤枝市民大学の第2期目となる令和5年度については、“地域を担う人づくりの強化”に向け、「デザイン思考」や「ブランディング」など講義内容の充実や資格取得コース受講者に向けた資格取得の支援制度の創設、学生間の交流の場の創出を図り、市民の多様な学びのニーズに応えるとともに、地域社会・地域経済を担う人づくりを進める。</p>			

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	4
事業名	小中学校職業観育成事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	教育政策課			園田 篤志	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	392,293	うち交付金充当額(円)	196,146	
事業目的	大学と連携して「子ども」と「専門家」をつなぐICTを活用した遠隔事業を市内小中学校に対し実施することで、子どもたちが多様な大人と出会い、職業観を身に着けるキャリア教育の一環とする。								
事業概要	<p>静岡大学塩田研究室の協力のもと、Web会議システムを利用し、市内7校を対象として子どもたちと専門家をつなぐ授業を実施した。</p> <p>児童生徒に学ばせたい授業内容や企業分野などについて事前に学校から希望を取り、協力企業を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲葉小学校・高州小学校・西益津小学校6年生(3校合同実施) 株式会社カプコン ・青島小学校6年生 株式会社カプコン ・藤岡小学校6年生 株式会社リクシル ・広幡中学校1年生 ハウス食品株式会社 ・青島中学校2年生 株式会社建設システム 							授業の様子	
事業経費内訳	報償費：305,000円 需用費：87,293円								
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							2：地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	コロナ禍においてもWeb会議システムを活用する本事業は、普段の授業ではなかなか会うことのできない専門家(ゲーム開発者、食品関係等)から話を伺える貴重な学びの機会となった。また、専門家の仕事について質問したり、専門家から与えられた課題を考えることで子どもたちの将来を考えるきっかけになった。				今後の方針		引き続き、学校と様々な企業をマッチングし、児童・生徒に多くの職業を知る機会を提供していくことで、キャリア教育の推進に取り組んでいく。		

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	5
事業名	高校生大学生による小中学生創造力育成事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	教育政策課			園田 篤志	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	1,671,849	うち交付金充当額(円)	835,924	
事業目的	ロボットづくりやプログラミングの体験をとおして科学技術に興味のある子を増やし、子どもたちの創造力・問題解決力を高める。また、多くの子どもたちに講座を受講してもらうことで科学教育のすそ野を広げていく。							 Enjoy! ロボット&プログラミング講座  ロボコン対策集中講座	
事業概要	<p>人型ロボット「Pepper」などを活用したプログラミング講座を、小学生を対象に大学と連携し開催。また、ロボット製作という過程を通じて、「モノづくり」の楽しさや素晴らしさ、達成感を与える場等を小中学生を対象に高校・大学と連携して提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Pepperプログラミングアカデミー 23名(小学5,6年生対象、静岡産業大学と連携) ・ Pepper 1day プログラミング講座 48名(小学3,4年生及びその保護者対象、静岡産業大学と連携) ・ ロボコン対策集中講座 15名(中学生対象、静岡大学と連携) ・ Enjoy! Robot & プログラミング 講座 16名(小学4~6年及び中学生対象、静岡高校と連携) ・ Micro:bitでプログラミング教室 52名(小学生3~4年生及び中学生対象、静岡大学と連携) ・ ドリトルで始めるプログラミング教室 25名(中学生対象、静岡大学と連携) 								
事業経費内訳	報償費：855,000円 需用費：777,732円 役務費：17,887円 使用料及び賃借料：21,230円								
	項 目						評価		
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。						2：KPIの達成に有効であった		
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。						1：効率的かつ低コストであった		
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。						2：地方創生に相当程度効果があった		
事業の評価	各講座とも、定員を上回る募集があり、受講生の満足度も高い。また、本事業の受講生は、ソフトバンクロボティクス㈱が行うプログラミングコンテスト「STREAMチャレンジ2023」や、全日本中学技術・家庭科研究会主催の「創造アイデアロボットコンテスト県大会」で優秀な成績を収めている。このことから、子どもたちの創造力・問題解決力の涵養に効果があったと思われる。				今後の方針		ICT教育を進めるにあたり、1人1台パソコンの配備を有効に活用してプログラミング教育を推進し、科学教育のすそ野を広げ、子どもたちの力を高めていけるよう、引き続き講座を開催していく。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	6	
事業名	科学探求心育成事業							作成責任者		
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	生涯学習課			西形 尚城		
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなぐ若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	2,723,692	うち交付金充当額(円)	1,361,846		
事業目的	科学や技術開発に興味を持つ子どものすそ野を広げ、未来を切り拓く力を育成し、科学実験や親子で参加できる講座・イベントを実施し、教育日本一を推進する。									
事業概要	<p>科学実験や親子で参加できる講座・イベントを実施した。</p> <p>藤枝市の科学教育について、小学校1, 2年生対象の「コズミックカレッジ」計5回、3, 4年生対象の「わくわく科学教室」計4回、5, 6年生を対象とする「藤枝市少年少女発明クラブ」計9回を実施した。</p> <p>藤枝市少年少女発明クラブではレベルの高い科学教育を提供するとともに、朝比奈大龍勢やみかん、お茶、蓮華寺池公園等に触れ、愛郷心も育成した。また、「民間企業・大学・市内公立高校・近隣市」等、多くの方々の協力を得ながら多面的な学習ができた。</p>									
事業経費内訳	<p>(委託料) 2,127,209円【委託先：藤枝市少年少女発明クラブ企画運営委員会、一般社団法人静岡県eスポーツ連合、中日本ドローン協同組合】</p> <p>(報償費) 325,000円 (需用費) 271,483円 (役務費) 0円</p>									
	項 目				評 価					
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。				2：K P Iの達成に有効であった					
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1：効率的かつ低コストであった					
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。				3：地方創生に効果があった					
事業の評価	学年齢に応じた3種類の科学教室の開催を中心に科学に興味を持つ子どもたちを育む事業を展開した。特に、少年少女発明クラブでは、「民間企業・大学・市内公立高校・近隣市」等の多くの協力により、幅広い題材で事業を実施したことにより、子どもたちの知的好奇心をかきたて、科学に関心を持つきっかけづくりに繋がった。				今後の方針	<p>小学校高学年及び中学生を対象とした、静岡STEMアカデミーを含めると、小学生から中学生までに科学教育を実施しており、地域産業を担う人材育成に一定の役割を果たした事業である。しかし、全体計画（若者定着推進計画）との直接的な関係性の観点から、令和5年以降は、事業計画を見直し、別の枠組みで事業継続を行う。</p>				




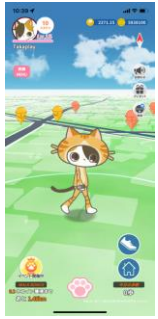
令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	7
事業名	プログラミングキャンプ事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	情報デジタル推進課			森下 健太	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)			事業費	事業費(円)	3,522,321	うち交付金充当額(円)	1,761,160	
事業目的	大学生・高校生が地元産業や起業家等との関わりを持ちながら、DXや先端テクノロジー活用の視点で、本市の抱える地域課題やまちづくりについて考える機会を創出し、地域への愛着と醸成すると共に、学生の将来の視野を拡大することを目的とする。								
事業概要	<p>高校生と大学生を対象に①地域の課題を知るワークショップ、②企業への取材準備を行うワークショップ、③発見を共有するワークショップの計3回を実施した。(参加者：31名)</p> <p>学生が実際に地域課題を検討し、課題解決に取り組む企業に調査取材を行い、デジタルコンテンツを作成し、共有した。</p> <p>実施後アンケートでは、高校生大学生の94%が「藤枝市の企業を知ることができた」と回答し、参加した企業の全社から「また協力したい」との回答を得た。</p>								
事業経費内訳	委託料 3,522,321円(委託先：NECソリューションイノベータ株式会社)								
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							2：効率的であったが、低コストでなかった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							3：地方創生に効果があった	
事業の評価	参加した高校生・大学生のアンケート結果からも、地域の課題解決や地元産業に関心を持つきっかけを創出できたことがうかがえた。平成30年度から方法を変えながら国の交付金を活用し、令和4年度まで実施しており、事業開始時は行政が先導する先行的な取組であったが、現在では民間でのプログラミング教室も増えていることから、行政の事業として一定の役割を果たしたものとする。			今後の方針			令和3年度までは小・中学生を対象とし、4年度は高校生や大学生まで対象を拡大し、事業を実施してきたが、事業の評価にも記載した通り民間のプログラミング教室も増えていることもあり、令和5年度以降本事業は実施しない。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	8
事業名	女子学生まちづくり事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和5年2月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなぐ若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	2,000,000	うち交付金充当額(円)	1,000,000	
事業目的	若い女性の視点でまちづくり活動を行うことにより、女性が活躍できるまちを推進するとともに、若者の地元への愛着醸成の機会を創出することにより、若者の地元定着を図る。							 	
事業概要	<p>女子学生目線で魅力的なスポットを紹介した市内の新たな観光コースをスマートフォン向け歩き旅アプリ『膝栗毛 HIZAKURIGE』上で開発。市内外にPRするためのまち歩きイベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■イベント名「ふじえだまち歩き」 ・(9月～10月) 題材の検討 ・(11月) 視察、台本作成、配信用動画撮影準備 ■イベント開催日 令和4年12月17日(土) 								
事業経費内訳	<ul style="list-style-type: none"> ■委託料2,000,000円 (委託先：株式会社膝栗毛)								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							1：KPIの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	日本遺産をはじめとした本市の魅力を内外に向けて発信する新たな観光コースを作成し、旅アプリを活用したイベントを実施したことにより、市内外に高いプロモーション効果があった。また、コース設定やスポットの探索からメンバーが関わることにより、藤枝市の魅力の再発見に繋がり、愛着醸成に寄与した。			今後の方針			引き続きメンバーが主体的に活動を行い、若い女性の視点で県内外へ藤枝市のPRを行うとともに、参加メンバーのキャリア形成に寄与する取組を行うことで、若者が藤枝市に愛着を持ち、進学等で転出して「戻って来たいくなる」ようなまちづくりを推進していく。		




令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	9
事業名	地域政策研究・創造事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年5月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	2,787,000	うち交付金充当額(円)	1,393,500	
事業目的	<p>包括連携協定を結ぶ大学の専門性や知見を活かし、学生が主体となって実効性のある調査研究を実施し、地域課題の解決や若者の定着を主軸とした人口対策を図る。</p> <p>また、オープン型地域政策研究事業については、多様な知見やノウハウを組み合わせたオープンイノベーションの創出、1大学ではできなかった分野への挑戦の支援による“知”の展開と価値向上を図る。</p>							 <p>令和5年3月8日 成果報告会の様子</p>	
事業概要	<p>【地域政策研究・創造事業】1大学500千円を上限に補助 大学の知的資源の地域への還元を図り、地域の発展に寄与するため、地域課題の解決に向けた方策の提言又は実践的な研究を行う大学に対して、補助金を交付。実施大学：6大学（静岡産業大学、静岡大学、常葉大学、静岡福祉大学、静岡県立大学、静岡理科大学）</p> <p>【オープン型地域政策研究事業】1研究1,500千円を限度に補助 大学の知的資源の地域への還元を図り、もって地域の発展に寄与するため、地域課題の解決に向けた実践的な研究を他機関と共同で行う大学に対して、補助金を交付。実施大学：静岡福祉大学</p>								
事業経費内訳	<p>【地域政策研究・創造事業】補助額計：2,225,000円（補助先：静岡大学500千円、静岡県立大学500千円、静岡理科大学500千円、静岡福祉大学380千円、常葉大学245千円、静岡産業大学100千円 補助率：10/10）</p> <p>【オープン型地域政策研究事業】 補助額計：562,000円（補助先：静岡福祉大学 補助率：10/10）</p>								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							1：KPIの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							2：効率的であったが、低コストでなかった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	各大学の研究成果と提言は、旧市街地総合再生基本計画エリア内の回遊性向上やモバイルファーマシーの活用など今後の藤枝市の発展に大変寄与するものであった。また研究を通して、学生が藤枝のまちや施策を知り、考える機会となったため、事業の効果は高かったと考えられる。一方で、地域政策研究・創造事業とオープン型地域政策研究事業との差別化に課題が残った。				今後の方針		交付金活用は令和4年度までだが、来年度以降も、若者の視点をいかした研究事業として大学と連携して継続していく。また、研究の実効性を上げるために、研究の評価制度を創出する等、制度の改正を行う予定である。		


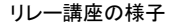


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	10
事業名	ICT人材マッチング事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	産業政策課			宮崎 真一	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	2,000,000	うち交付金充当額(円)	1,000,000	
事業目的	未来型スキル教育支援事業で育成した、ICT活用基礎・マーケティング・業務系システムの専門知識を有する人材と地域企業との就労マッチング(就職や契約、業務委託の実現)を行うことにより、市内企業の業務効率化や成長・発展に寄与し市内産業の活性化を図る。								
事業概要	<p>ICTスキルを有する人材の育成及び育成した人材と企業とのマッチングを目的に研修プログラムを実施した藤枝ICTコンソーシアムに対して補助金を交付する事業。</p> <p>就業に役立つICTの活用や情報ビジネススキルの取得を目的に未来型ワーク・ゼミ生を募集し、専用SNSを活用したオンデマンド講座や演習、地元企業との交流を兼ねた未来型スキル勉強会等を通じて、就労につながるスキルやキャリアのアップ、企業とのマッチングを支援した。</p> <p>【参加企業】120社 【マッチング件数】16件</p>								
事業経費内訳	<p>補助金：2,000,000円 (交付先：藤枝ICTコンソーシアム 補助率10/10)</p>								
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							3：地方創生に効果があった	
事業の評価	未来型スキル教育支援事業の参加者から介護職やIT企業等幅広い業種の就業につながっており、マッチング機会の提供、企業へのデジタル人材の供給という点で有効であった。企業からデジタル化・DX化を望む声を多く受けているため、外部人材とのマッチングに加え、内部人材の人材育成にも取り組んでいく必要がある。			今後の方針			企業からデジタル化・DX化を望む声を多く受けているため、3年間実施した未来型スキル教育支援事業をボトムアップし、地元企業の社員を対象とした業務の改善や効率化を推進する人材の育成、リスクリング(デジタル技術の学び直し)やリカレント教育によるキャリアの再形成、女性や学生等の新たなデジタル人材の育成等、デジタル技術を習得するプログラムを提供し、地域DXを牽引するデジタル人材の育成に取り組む。		



令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート							事業No.	11
事業名	学生が地域企業を知る魅力探索事業						作成責任者	
事業開始年月	令和4年10月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課		堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなぐ若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	1,617,000	うち交付金充当額(円)	808,500
事業目的	高校生や大学生のキャリアに対する意識を早い段階から醸成し、企業が求める人材と学生が求める企業とのマッチング支援を行うことにより、若者の地元定着を促進するとともに、市内企業の活性化を図る。							
事業概要	<p>藤枝市産学官連携推進協議会が実施する、以下の取組に対し、補助金を交付した。</p> <p>【内 容】 ①インターンシッププログラム開発支援 ②学生と企業の交流会開催 ③企業向けセミナー開催</p> <p>【実施時期】 ①令和4年11月～令和5年2月 ②令和4年11月～令和5年2月 ③令和5年3月28日</p> <p>【参加者数】 ①企業2社4名、学生6名 ②企業4社4名、学生5名 ③企業・団体25社、31名</p>						 <p>インターンシップ開発の様子</p> <p>企業向けセミナーの様子</p>	
事業経費内訳	補助金：1,617,000円 (交付先：藤枝市産学官連携推進協議会 補助率：10/10)							
	項 目						評価	
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。						2：K P Iの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。						1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。						2：地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	学生と企業のミスマッチを解消するため、本事業で開発したインターンプログラムを実施する企業が3社現れ、中小企業も大学生の採用に向けたインターンシップの開発や、採用情報の発信方法の研究など、積極的な人材獲得に向けた変化が見られた。また、企業向けにインターンシップのセミナーを開催したところ、企業・団体25社、31名の参加があるなど、市内中小企業の人材獲得への取組の機運を高めることができた。			今後の方針		藤枝市産学官連携推進協議会に参画する各団体の実施する人材獲得に係る取組みと連携し、本事業で得たインターンシップのノウハウを、市の産業市内企業に広く展開し、学生の地元定着を推進する。		

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート							事業No.	12
事業名	行政サービスオープンイノベーション推進事業						作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	情報デジタル推進課		森下 健太	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	7,533,642	うち交付金充当額(円)	3,766,821
事業目的	各課が向き合っている地域課題や社会課題及び今後導入すべき市民サービス等について、多様なアイデア・ノウハウ・技術の集積による、ICTを活用した市民サービスの質の向上、市内産業の革新を図る。			 				
事業概要	各課が抱える地域課題や社会課題に対して全国から企画提案を公募し、地域課題8テーマの募集に対して15件の応募があり、選定の上、下記4テーマにおいて共同実証実験により検証した。 (1)持続可能な地域づくりに向けた地域活動のデジタル化 (2)見守りロボットを活用し、住みなれた地域で安心して暮らせるようにしたい (3)自転車の出会い頭事故を無くすために！自転車が一時的に停止したくなる仕組み募集 (4)2023大河ドラマ「どうする家康」を契機とした市内観光需要喚起			 				
事業経費内訳	負担金(全体事業費の2分の1以内を市が共同実証実験負担金として支出) (1)2,000,000円(共同実証事業者 ㈱藤枝江崎新聞店 1/2負担) (2)1,666,500円(共同実証事業者 ユカイ工学㈱ 1/2負担) (3)1,867,142円(共同実証事業者 シーキューブ㈱ 1/2負担) (4)2,000,000円(共同実証事業者 リアルワールドゲームス㈱ 1/2負担)							
	項 目			評 価				
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。			2: KPIの達成に有効であった				
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。			1: 効率的かつ低コストであった				
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。			3: 地方創生に効果があった				
事業の評価	経産省関東経産局や静岡県、東京都によるスタートアップ支援のプラットフォーム等との協力を得て、全国の企業に対して事業を周知でき、地域課題8テーマの募集に対して15件の応募があった。検証した4件については、全てが実装に繋がらなかったが、自治会活動のデジタル化や回遊性向上に向けたアプリ活用等に向けて、継続した活用及び活用検討に入っている。			今後の方針		本事業により展開してきた実証を実装につなげるため、企画政策課、産業政策課、創業支援室、企業立地戦略課、情報デジタル推進課により横断的に推進している首都圏企業誘導事業において、市内での地域課題解決をビジネス化につなげて企業誘致を図る取組として企業間連携ビジネス創出支援事業(創業支援室予算)を構築し、首都圏企業と市内企業の連携による取組を推進していく。		


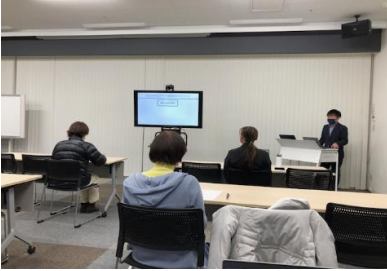
令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート							事業No.	13
事業名	大学ネットワーク会議						作成責任者	
事業開始年月	令和4年5月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課		堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	156,600	うち交付金充当額(円)	78,300
事業目的	包括連携大学間の横の繋がりを深め、各大学の強みを結集し相乗効果を生み出すことで、持続力ある地域づくりとこれを担う人材づくりを推進する。						 <p>藤枝大学ネットワーク会議の様子</p>	
事業概要	<p>6大学連携共同講座のテーマやフィールドワークの試行について、協議を実施した。</p> <p>【日時】令和4年6月13日(月)</p> <p>【会場】藤枝市産学官連携推進センター</p> <p>【内容】・令和4年度活動計画について ・連携大学共同講座について</p> <p>【出席者】静岡産業大学/静岡大学/常葉大学/静岡福祉大学/学校法人静岡理工科大学 ふじのくに地域・大学コンソーシアム/藤枝市</p>							
事業経費内訳	会場使用料：156,600円							
	項 目						評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。						2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。						1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。						1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	6大学連携共同講座事業等について各大学と協議を行うことにより、時勢に沿ったテーマ設定など地域の高校生・大学生に多様な気づきを与える場の創出につながった。また、高校生のキャリアデザインに繋げる取組みとして、静岡大学の協力によりフィールドワークを施行できたなど事業の効果は高かったと考えられる。			今後の方針		地域の高校生が大学進学前に地域のことをより深く知る機会を創出し、地域への愛着醸成へつなげるとともに、高大間の学生同士の繋がりを生み出し、地域の次代を担う人づくりを進めるため、連携大学及び地域の高校を含めた高大連携での推進体制を構築していく。		

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	14
事業名	首都圏大学との連携促進							作成責任者	
事業開始年月	令和4年10月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	1,080,000	うち交付金充当額(円)	540,000	
事業目的	首都圏の学生による本市でのフィールドワーク等の事業活動を通して、地域が抱えている諸問題の発見と課題解決に向けて、提案を行うことにより地域との関わりを深化させ、人材の東京一極集中是正や若者の地方への還流を推進する。							 任命式の様子	
事業概要	<p>大正大学が藤枝市産学官連携推進センターに設置するサテライトキャンパスを拠点とした地域実習を補助する。</p> <p>令和2、3年度とコロナ禍によりオンラインでの実習であったが、令和4年度は本市を舞台にフィールドワークを実施し、「藤枝市での暮らしの探究」をテーマに理想の地域を考える研究が行われた。</p> <p>(1) 実施期間 ①令和4年10月3日～28日のうち2週間程度 ②令和4年10月3日～14日 ③令和4年10月24日～11月4日</p> <p>(2) 参加者 ①3年生5名 ②2年生9名 ③2年生9名</p>							 フィールドワークの様子	
事業経費内訳	<p>補助金：1,080,000円</p> <p>(交付先：大正大学 補助率：10/10)</p>							 報告会の様子	
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。							1：K P Iの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							2：地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	2年生のフィールドワークでは、「暮らしの探求」をテーマに、市民との対話を通じた気づきから、本市の魅力化プランを作成するという従来の地域課題発見、解決という外からの目では無く、そこに暮らすに人々の目線に立って地域の理想を考えるという新たな地域と学生との関わりが生まれた。				今後の方針		学生など若い世代のまちづくりへの参画や地域産業の活性化の推進のため、今後は、首都圏大学の学生と市民や地域企業、地域大学、高校などと連携した取組としていく。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	15
事業名	大学同士が連携した共同講座の開催							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和4年9月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	1,223,933	うち交付金充当額(円)	400,000	
事業目的	本市及び包括連携協定を締結する県内6大学が協力し、地域の学生等に幅広い分野の知見を提供することで、地域の高校生・大学生に多様な気づきを与え、地域の将来を担う人材育成の推進及び地元定着を図る。								
事業概要	<p>地域の高校生・大学生を対象に6大学連携共同講座「しずおか中部 未来学」を実施。</p> <p>①共同講座【開催日】令和3年8月12日(金)【参加者数】高校生・大学生35人【内容】テーマ型リレー講座、オープンキャンパス</p> <p>②フィールドワーク、学びの共有会【開催日】令和3年8月16日(火)、18日(木) 【参加者数】上記参加者のうち高校生5人【内容】地域で活躍する10名へのインタビューセッション、本事業で得た学びや創造した自身の「なりたい姿」を参加者間で共有</p>							  合同オープンキャンパスの様子	
事業経費内訳	委託料 1,223,933円(委託先:学校法人新静岡学園 静岡産業大学 補助率:10/10)							 フィールドワークの様子	
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2: KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1: 効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							2: 地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	受講者アンケートを実施したところ、概ねいずれの講義も好評であり、オープンキャンパスも「沢山の大学の方々の話が聞けて、将来自分が作りたい未来を考えられるきっかけとなった」等の意見があるなど、事業実施の意義・効果は高かったものと考えられる。フィールドワークについても、好評ではあったが参加者数が伸び悩んだため、事業周知等改善が必要な状況である。				今後の方針		高校・大学双方のニーズを的確に踏まえ、事業の実効性を向上させるため、連携大学及び地域の高校を含めた高大連携での推進体制を強化し、地域の次代を担う人づくりを推進していく。		





令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	16
事業名	教育活動拠点支援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	企画政策課			堀田 貴久	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなぐ若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	1,399,000	うち交付金充当額(円)	699,500	
事業目的	中心市街地において、大学のサテライトキャンパスの開設を促進することで、人材育成の拠点性の向上と、本市への若者を中心とした人の流れを創出する。								
事業概要	静岡理科大学グループが設置する、「学校法人静岡理科大学藤枝イノベーション・commons」(市産学官連携推進センター)にて実施した、小学生への理工系教育、中高大学生への探求教育、そして社会人へのリカレント教育などの取組みに対し補助金を交付した。 【内 容】①小学生対象理科実験講座(参加者40名) ②こどもお仕事体験フェア(参加者85名) ③地域課題解決講座(参加者25名) ④社会人リカレント講座(参加者9名) 【実施日】①令和4年7月10日(日) ②令和5年3月27日(月) ③令和4年8月3日(水)、4日(木)、9日(火)、22日(月) ④令和5年2月25日(土)							地域課題解決講座の様子 	
事業経費内訳	補助金：1,399,000円 (補助先：静岡理科大学 補助率：10/10)								
	項 目							評 価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							1：KPIの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	理工系大学や中学校から高校、専門学校などが所属する静岡理科大学グループが有する幅広い教育ノウハウを活用した、小学生から社会人までの各階層に応じた取組を実施することができ、児童の科学への興味関心の醸成、中学生から大学生の課題解決能力の向上、社会人のリスキリングとともに、中心市街地における教育活動の拠点性の向上を進めることができました。				今後の方針		これまでの取組により、本市の中心市街地における静岡理科大学グループの活動の定着が図られたため、今後は、理工系大学の強みを活かし、理系人材の育成に特化した取組を推進していく。		





令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	17
事業名	首都圏企業誘導推進事業							作成責任者	
事業開始年月	R4.6	事業終了年月	R5.3	担当課	企画政策課			河島 浩二	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(大学を中心に、人と産業を育てつなく若者定着推進計画)</small>			事業費	事業費(円)	14,975,000	うち交付金充当額(円)	7,250,000	
事業目的	首都圏のスタートアップやベンチャーなどの企業や人材と、市内企業との連携を促進し、デジタル技術等を活用した市内のビジネス革新の推進により、人口減少・少子高齢社会においても、地域産業の競争力の強化及び持続性を確保する。							 	
事業概要	<p>4 K施策を柱とした地域課題の解決に向け、首都圏と市内の企業との合同地域課題研修会を開催し、本市でのビジネス展開のイメージを持たせ、首都圏と市内の企業のコミュニケーションを創出し、新ビジネス創出や市内企業の成長を促進する。また、首都圏と市内の企業による新ビジネスの活動拠点となる「藤枝DXセンター」を立上げ、コミュニケーションの活性化と、ビジネスマッチングを促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合同地域課題研修ツアー：1回目2月27～28日（首都圏企業7社8名、市内企業14社14名） 2回目3月9～10日（首都圏企業10社11人、市内企業18社19名） 藤枝DXセンターの運営（榊江崎新聞店）：6月1日～3月31日 							 	
事業経費内訳	<ul style="list-style-type: none"> ●首都圏企業誘導推進業務 【委託費4,975,000円 株式会社ヒトカラメディア】 ●藤枝DXセンター事業費補助金 【運営費補助：10,000,000円(補助率10/10) 株式会社藤枝江崎新聞店】 								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							1：KPIの達成に非常に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							2：効率的であったが、低コストでなかった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	首都圏企業と市内企業の合同研修会は、活発な意見交換や情報交換がされ、新たなビジネスを創出する首都圏企業と市内企業のコミュニティの形成や、市内企業間の横の繋がりづくりが促進されるとともに、藤枝DXセンターが運営するコミュニケーションツールに登録されたことで、継続的なコミュニケーションや、次年度以降の本市の取組への誘導を可能とする体制を構築することができた。			今後の方針			本年度構築した地域経済の変革の基盤を活用し、首都圏企業と市内企業が参加するビジネスコンテストの開催など、新ビジネスが創出される取組を進めるものとする。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	18
事業名	テレワーク支援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	情報デジタル推進課			森下 健太	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	10,000,000	うち交付金充当額（円）	5,000,000	
事業目的	市民が、時間や場所を選ばない働き方を実現する環境づくりに向け、藤枝ICTコンソーシアムが実施する藤枝型クラウドソーシング事業を活用する市民ワーカーのスキルアップ支援を目的とする。							 	
事業概要	藤枝ICTコンソーシアムが実施する市民ワーカーのスキルアップ支援事業（市民ワーカー向けに、デジタルツールの知識・使い方を習得する「(1)デジタルコミュニケーション講座」、クラウドソーシングでの働き方や仕事の流れを学ぶ「(2)スタートアップ講座」、業務に役立つ(3)Webデザイン技能検定及び(4)Microsoft Office Specialist（MOS）Excelエキスパートの「資格取得支援」）を支援した。支援事業には延べ52名（(1)20名、(2)7名、(3)15名、(4)10名）が参加した。								
事業経費内訳	補助金：10,000,000円 （交付先：藤枝ICTコンソーシアム 補助率10/10）								
	項 目							評 価	
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。							2：K P Iの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							2：効率的であったが、低コストでなかった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							3：地方創生に効果があった	
事業の評価	対面とオンラインのいずれにも対応し、時間や場所を選ばず受講できる形式の講座としたことで、市民ワーカーの学習環境に合わせるとともに、受注までの流れの理解や、業務上必要なスキル理解を促すことで、より市民のテレワーク利用（多様な働き方への対応）が促進されることが考えられる。			今後の方針		テレワーク活用を推進するため、市民ワーカーをスキルや属性に応じてグループ分けし、それぞれが目指す方向に合わせたスキル講座の開催や企業との交流会を開催し、市民ワーカーの育成を推進する。また、ワーカーが対応可能な案件を、企業に対し提案することで利用拡大を促していく。			

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	19
事業名	ワーケーション推進事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	中山間地域活性化推進課			良知 英人	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】(4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト)			事業費	事業費(円)	99,000	うち交付金充当額(円)	49,500	
事業目的	コロナ禍における地方への企業の機能分散の流れや企業におけるテレワークを活用した働き方改革の動きを受け、都市部から地方への人の流れを促すために中山間地域にある施設でワーケーションを推進する。ワーケーションを通じ中山間地域の魅力を発信することで、交流人口の拡大や地域の活性化を図る。							 <p>利用促進チラシ「藤枝市のワーケーション補助制度を利用しませんか？」</p>	
事業概要	中山間地域の観光施設や宿泊施設におけるワーケーション利用促進に向け、首都圏の企業や移住者に向けたチラシを5,000部作成し、プロモーションを行った。また、ワーケーションの環境受入体制整備のためのワークスペース整備や公衆無線LAN環境整備(Wi-Fi)を行うための補助制度を、中山間地域の宿泊業者へPR・説明し、次年度以降の環境整備に繋げた。								
事業経費内訳	需用費 利用促進チラシ作成 99,000円								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2: KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1: 効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							3: 地方創生に効果があった	
事業の評価	チラシ等により、当市中山間地域におけるワーケーション利用について、首都圏移住者等へ案内、PRしたものの、当市中山間地域におけるワーケーション利用者の増加までは至らなかった。今後、利用者の多い宿泊施設に向けてワークスペース整備を促進していく。				今後の方針		今後も積極的なPRと宿泊施設におけるワークスペース整備を進めると共に、市内外の企業やアーティスト向けのワーケーション利用の見学会を開催し、当市の中山間地域におけるワーケーション利用を促進していく。		


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	20
事業名	障害者テレワークオフィス支援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	障害福祉課			大場 文敬	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	1,410,416	うち交付金充当額（円）	705,208	
事業目的	<p>企業への就労定着に課題の多い精神・発達障害者に着目し、その方たちが安心して就労できる先進的な仕組みである障害者テレワークオフィスに対する支援を行うことにより、オフィスが安定的な運営に寄与し、障害者本人の就労環境の向上と企業の障害者雇用の推進を目的とする。</p>							 <p>テレワークオフィスでの就労の様子</p>	
事業概要	<p>障害者が、個々の能力や特性を活かし、社会の中で自立し生きがいを持って生活するための施策の一つとして、障害者テレワークオフィスを運営する法人等を支援する。</p> <p>障害者テレワークオフィスには、常駐の見守りカウンセラーが配置されており、従来の企業単独でのテレワークによる在宅勤務では気づくことができなかった障害者の体調の変化等にきめ細かく対応が可能となり、安全安心な体制を確保した上で、障害者が働く環境を整えている。また、人間関係の困難さを取り除くことにより、その特性や能力を十分に発揮し、企業の戦力として活躍することが可能となる全国的にも非常に希な障害者就労モデルである。</p>								
事業経費内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金 1,200,000円（交付先：一般社団法人静岡障害者就労企業交流会 補助率 1/2） ・消耗品費等210,416円 								
	項目				評価				
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。				1：KPIの達成に非常に有効であった				
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1：効率的かつ低コストであった				
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。				1：地方創生に非常に効果があった				
事業の評価	テレワークオフィスに常駐の見守りカウンセラーを配置し、細かな目配りが行きわたるスキームとしたことから、利用者も精神的に落ち着いた状況で安定的に業務に従事できた結果、それぞれが企業に定着し、自立した生活を送れている。			今後の方針	この取組みを通じて一般企業に就労できる人を増やすため、引き続き支援を継続するとともに、本市の取組みを積極的に他市町に広がるよう広報していく。また、テレワークオフィスの一角において、退職者のリワークや特別支援学校の体験の場など、障害のある人が一般就労に繋がるための様々な展開を検討する。				

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	21-1
事業名	地域DX推進事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	情報デジタル推進課			森下 健太	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	10,000,000	うち交付金充当額（円）	5,000,000	
事業目的	市内企業に対して、デジタル化社会に求められる個別の設備投資やイノベーション、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を促進し、市内企業の意識の向上と業務の最適化を支援し、市内企業の競争力強化を図る。							 	
事業概要	<p>(1) コンサルティング活動 市内企業への訪問聞き取り調査による課題の確認、企業カルテの作成及び関係団体への情報共有、企業カルテに基づくDX推進施策の検討。新たに企業カルテを51社分作成。</p> <p>(2) DXセミナーの開催 DXの基本を分かりやすく学ぶオンラインセミナーの開催。3回開催し、101名が参加。</p> <p>(3) 各企業へのDX推進施策の実証実験 企業カルテから判明した共通課題に対して、解決に向けたDX施策のモデル実証実験5社7件を実施。</p>							 	
事業経費内訳	補助金：10,000,000円 (交付先：藤枝ICTコンソーシアム 補助率10/10)								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							2：効率的であったが、低コストでなかった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							3：地方創生に効果があった	
事業の評価	セミナーでの意識啓発と共に、地元企業を回るコンサルティング活動により洗い出された「地元産業における生産管理や業務効率化等の共通課題」の解決に向けては、DX施策の実証実験を実施し、5社7件で他企業のモデルとなるような成果を得ることが出来たことから、今後の他企業への横展開が期待できると考える。			今後の方針			令和4年度に実施した、企業の課題解決のためのインボイス制度の対応やローコード開発などの取組の成果をモデルに、市内企業に対し横展開し、導入を促進し、DXを進めることで、業務効率化や生産性の向上を図る。		



令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	21-2
事業名	地域DX推進事業（withコロナ産業未来展）							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	産業政策課			村松 紀幸	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	1,800,000	うち交付金充当額（円）	900,000	
事業目的	革新技術の紹介やビジネスマッチングの場を提供し、地域活性化に大きな成果をあげている具体事例や地方の隠れたポテンシャルを引き出すための最新技術を紹介することで、地域の機能やサービスを効率化・高度化を促し、各種課題の解決へと繋げて行く。								
事業概要	<p>最新のITトレンドを体感し、コラボで今後の藤枝市のIT化を加速を促す下記事業に対し補助金を交付した。</p> <p>事業実施者：ふじえだ産業祭実行委員会</p> <p>実施期間：令和4年10月29日～30日</p> <p>実施事業：＜最新のITトレンドを体験＞</p> <p>① マッスルスーツEvery体験 ② 「GAIA TOWN」メタバース体験</p> <p>③ あつまれどうぶつの森体験 ④ ドローン体験の開催</p>							 	
事業経費内訳	補助金1,800,000円（交付先：ふじえだ産業祭実行委員会 補助率10/10）							 	
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	展示会において、市民や事業者自身が、マッスルスーツ、メタバース、ドローンの実機操作を行うことで、幅広い世代・業種へのDXやニューノーマル時代の最先端技術の認知向上に繋がったとともに異業種間での交流の創出に寄与した。				今後の方針		今回の事業で得た知見や経験を基に、DXやニューノーマル時代の産業の在り方に関するリテラシー向上に向け、市民や事業者に分かりやすい体験会や展示会を開催し、地域産業のDX化を推進する。		



令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	22-1	
事業名	4 K重点施策イノベーション推進事業							作成責任者		
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	情報デジタル推進課			森下 健太		
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】(4 Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト)			事業費	事業費(円)	1,655,581	うち交付金充当額(円)	827,790		
事業目的	4 K重点施策を中心とした先端技術活用により、市民の暮らしの質の向上と、安全・快適・便利な暮らしの実現を図るスマートシティ形成に向け、地域課題を洗い出し、有効と思われるソリューションの実証を行い、行政サービスへの実装を図る。				 					
事業概要	<p>介護予防のための「通所型介護サービス(通所C)」のプログラムにおいて、歩行補助ロボットcuraraを取り入れることで、サービスの質や効果、利用者の満足度等にポジティブな効果が現れるかどうかを検証するため実証実験を行った。また、中学生、中学校教員にメタバース空間を活用した体験学習プログラムを実施し、現実世界では取り扱えないものをを用いた学習として、今後の授業や職業観育成事業、コロナ禍での学習指導等に活用できないかを検証した。</p> <p>(1)ロボティックウェアを用いた歩行訓練実証実験 (2)教育現場におけるメタバースの活用実証実験</p>				 					
事業経費内訳	<p>負担金(全体事業費の2分の1以内を市が共同実証実験負担金として支出)</p> <p>(1) 243,181円 共同実証実験事業者 AssistMotion(株) (2) 1,412,400円 共同実証実験事業者 (株)バスキュール</p>									
	項 目				評 価					
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。				2: KPIの達成に有効であった					
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1: 効率的かつ低コストであった					
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。				3: 地方創生に効果があった					
事業の評価	事業推進にあたり、先端技術ゆえにランニングコストが高額であることなど費用対効果での評価が難しく、実証での各事業評価をもって即実装に至らないケースがある。しかしながら、人口減少社会において、市民の暮らしの質の向上と、安全・快適・便利な暮らしの実現を図るためには、先端技術活用により効果や効率化を高めていくことが求められることから、検証から実装につなげるサイクルを重ねていく必要がある。				今後の方針	国や県のイノベーション事業、連携企業等からの情報収集に努め、4 K分野における課題解決に向けた先端技術活用を検証していく。				

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	22-2
事業名	4 K重点施策イノベーション推進事業（河川水位予測）							作成責任者	
事業開始年月	令和4年7月	事業終了年月	令和4年12月	担当課	河川課			榛葉 隆浩	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4 Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	12,437,386	うち交付金充当額（円）	6,218,693	
事業目的	近年頻発化、激甚化する豪雨災害に備えるため、市内を流れる中小河川に設置した水位計の水位データと降雨データを用いて河川水位を予測するためのモデルを構築し、予測結果に基づく事前（先手）の水防活動の実現や、避難情報の早期発令に繋げる。								
事業概要	市内を流れる中小河川に設置した水位計の水位データと降雨データを用いて河川水位を予測するためのモデルを構築する。また、河川水位に大きく影響する河川内の農業用施設（水門）の稼働状況を監視するためのセンサーと稼働状況を確認するシステムを構築する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3河川3地点の水位予測モデルを構築 ・ 農業用施設（水門）8箇所センサーを設置し、監視システムを構築 				<p>↑ 予測モデルイメージ</p> <p>← 河川水位予測地点の河川氾濫状況（氾濫直前）</p>				
事業経費内訳	<ul style="list-style-type: none"> ■ 委託料 12,437,386円 ・ 河川水位予測モデル構築（株式会社 構造計画研究所） ・ 河川取水施設監視システム構築（株式会社 イートラスト） 								
	項目				評価				
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。								
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。								
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。								
事業の評価	令和4年度に襲来し、本市に多くの浸水被害をもたらした台風15号による河川水位予測モデルの検証では、概ね精度の高い（正確な）結果を導き出した。しかしながら、今までに経験したことがない、河川水位を計測したため、一部水位の変動にブレが生じていた。また、今回は、降雨予測が大幅に外れたことで、結果として多くの浸水被害が発生したため、降雨予測の精度向上が求められる。			今後の方針	台風15号を経験し、河川水位予測へ期待するものは大きい。更なる河川水位予測向上に向け、既存の水位予測地点の河川水位の経験を積むとともに、新規地点のモデル構築を実施し、引き続き市民の安全・安心に繋げる。				



令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	23
事業名	農業用水監視システム構築（IoTセンサー）事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年7月	事業終了年月	令和4年12月	担当課	河川課			榛葉 隆浩	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	7,087,614	うち交付金充当額（円）	3,543,807	
事業目的	河川内の農業用施設（水門）の稼働状況が河川水位に大きく影響することから、適切な農業用施設の管理のためのシステムを構築し、河川水位予測の精度向上に繋げる。								
事業概要	河川水位予測を実施する河川の流域に存する農業用取水施設（水門）にセンサーを設置し、河川水位予測の精度向上を図る。 ・農業用施設（水門）8箇所にセンサーを設置し、監視システムを構築							左上：河川溢水状況 右上：農業用取水施設（水門閉：農繁期） 右下：センサー設置（水門開：農閑）	
事業経費内訳	■ハード事業経費 7,087,614円 ・河川取水施設監視システム構築（株式会社イートラスト）								
	項 目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							3：地方創生に効果があった	
事業の評価	台風15号では、全ての農業用施設（水門）が開いていることが確認でき、河川水位予測の精度向上に繋げることが出来た。また、日常的な降雨に対しても、遠隔で農業用施設（水門）の稼働状況が確認でき、水防活動時のパトロールの人工削減に繋がった。			今後の方針			引き続き、本システムを活用し、河川水位予測の精度向上を図るとともに、水防活動の省力化のため、システムの活用を継続していく。		



令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	24
事業名	食メディア推進事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	学校給食課			松村 麻子	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（4Kスマートシティ形成による地域産業の革新と豊かな暮らし創造プロジェクト）			事業費	事業費（円）	1,200,000	うち交付金充当額（円）	600,000	
事業目的	小学生が地元食材を使い、自分で給食メニューを作ることで、地元の農産物や食べ物の栄養などを学び、料理への興味や、食を通じた家族のコミュニケーションを広げ、地産地消を通じた食育推進を図る。				最優秀賞レシピ		表彰式		
事業概要	藤枝市内の小学校に通う児童（1年生～6年生）を対象に、藤枝市産の小松菜、チンゲン菜、三つ葉、しいたけのいずれか1種類以上を使った汁物メニュー（「えだメシ～学校給食メニューコンテスト～」開催）を募集し、最優秀賞作品を実際に小中学校へ学校給食メニューとして提供した。 【応募件数】150名（参考：昨年度応募件数131名）								
事業経費内訳	学校給食献立開発委託料 1,200,000円 委託先 株式会社 ABC Cooking Studio								
	項 目				評 価				
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。				3：KPIの達成にあまり有効ではなかった				
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				4：効率的でなく、低コストでなかった				
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。				3：地方創生に効果があった				
事業の評価	<p>レシピの応募方法にQRコードからの応募を加えたことにより、昨年度より応募件数が増加した一方、指定食材が4品目であったことから応募レシピが類似してしまった。</p> <p>食育事業としては、申込者の増加から保護者への周知ができ、実際に家庭においても親子で献立を考え、調理することで地元食材の周知や食育活動につなげることが</p>				今後の方針		募集できるメニューが副菜または汁物であることに加えて、食材として使用する藤枝産の食材に限られるため、新たな藤枝産の食材を開拓することにより、応募者数の増加と地元食材を使用したレシピの充実を図る。		




令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	25
事業名	高齢者等社会参画推進事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年9月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	生涯学習課			赤堀 真也	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】(生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン)			事業費	事業費(円)	3,000,000	うち交付金充当額(円)	1,500,000	
事業目的	「生涯現役・生涯活躍のまち」、そして「いつからでも学び、チャレンジできるまち」に向け藤枝市民大学を創設し、幅広い世代の市民に多様なニーズに沿った「学び」を提供し、地域社会・地域経済を担う「人づくり」を進める。								
事業概要	「藤枝市民大学」を創設し、「一般教養コース」と「資格取得コース」について、静岡産業大学と連携して実施した。 【講座内容】一般教養コース「一般教養講座」6回、「地域学講座」6回 資格取得コース「生涯学習コーディネーター講座」4回 【実施時期】令和4年9月～令和5年2月 【受講者数】一般教養コース「一般教養講座」201人、「地域学講座」177人 資格取得コース「生涯学習コーディネーター講座」22人								
事業経費内訳	(委託料) 3,000,000円 (学校法人新静岡学園 静岡産業大学)								
	項目				評価				
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。				1: KPIの達成に非常に有効であった				
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1: 効率的かつ低コストであった				
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。				2: 地方創生に相当程度効果があった				
事業の評価	一般教養コースでは、目標定員を大幅に上回る受講希望者を全て受け入れて、市民の学ぶ意欲に応え、また、アンケート結果からも全体的に高い満足度を得ることができた。一方、理系教育の講座を望む声も寄せられたため、より多様なニーズに沿った「学び」を提供していく必要がある。			今後の方針		令和5年度より、企画政策課のリカレント教育事業を統合し、「藤枝市民大学事業」として一体で実施していく事で、円滑な事業実施を図るとともに受講者のニーズに柔軟に対応していく。 また、一般教養コースとリカレント教育コースの計4講座は、市民の旺盛な学びの意欲に応えるため、講座数を6回から10回に拡大する。			


令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	26
事業名	高齢者等ICT活用推進事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	生涯学習課			赤堀 真也	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】(生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン)			事業費	事業費(円)	339,560	うち交付金充当額(円)	169,780	
事業目的	生涯を通じた学びによって自己実現を図り、様々な形で社会参画する人材を育成するため、住民の学びの意欲に応えた講座や多様な学習機会を提供する。								
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域で活躍する人材育成研修会 ICTに係る複数回制のコース講座を実施し、より高い知識・技術を習得することで地域の担い手として活躍する人材を育成する。 (5回・参加者81名)								
事業経費内訳	報償費 274,000円 需用費 23,100円 役務費 42,460円								
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2: KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1: 効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							2: 地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	アンケート結果では好意的な回答が多く、市民のニーズに応えた学習機会を提供できた。また、習得の難しいICT分野において同一受講者で複数回制の講座を実施することで、受講者のより高い知識・技術の習得へとつなげることができた。			今後の方針			令和5年度も、引き続きより高い知識・技術の習得を目的にICTに係る複数回制のコース講座を実施することで地域の担い手として活躍する人材を育成することを目指す。		

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	27
事業名	アクティブシニア活躍応援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年7月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	産業政策課			長谷川 達巳	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン）			事業費	事業費（円）	4,969,470	うち交付金充当額（円）	2,484,735	
事業目的	<p>少子高齢化、人口減少に伴う企業の構造的な人手、人材不足を補うとともに、誰もが意欲と能力に応じて働くことができる地域づくりを目指すため、高齢者雇用等を希望する企業を調査し、経験やスキルのある高齢者等とのマッチングを推進し、アクティブシニアの活躍の場の創出を図り、地域産業の担い手の確保につなげる。</p>								
事業概要	<p>(1)ベテラン技術者の「ものづくり技術」体験コーナー ふじえだ産業祭にて老若男女問わずものづくり技術を体験できるブースを企画、実施。 ふじえだ産業祭：令和4年10月29日(土)、30日(日)、参加者：277名</p> <p>(2)市内企業と高齢者との雇用マッチング“もう一度働きたいシニアを応援”就職相談会 企業と高齢者の就職相談会を開催することでマッチングの創出機会を図る。 開催日時：令和5年1月24日（火）13時30分～15時 会場：ホテルオーレ、参加企業数：15社、参加者：82名</p>								
事業経費内訳	委託費：4,969,470円（委託先：静岡県中小企業団体中央会）								
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。							1：地方創生に非常に効果があった	
事業の評価	<p>ベテラン技術者の「ものづくり技術」体験コーナーでは、277名がものづくり技術を体験した。鉋で削りや、茶の合組を子どもや若者が体験し、アンケートではものづくりに対する興味や驚きの回答があがり、などベテラン技術者の技術が未来に繋がった。</p> <p>シニア就職相談会では、9名が実際の就職に繋がりと、高齢者と市内企業とに雇用機会</p>				今後の方針		<p>ものづくり体験コーナーは、産業祭が隔年の実施のため、出展催事を検討して引き続きベテラン技術者の技術を未来に繋いでいく。「人材確保」の解消に向けて、引き続き、中小企業が求めるスキルに応じた高齢者雇用のマッチングを就職相談会を実施していく。</p>		

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	28	
事業名	ふじえだ足すと（アシスト）号運行事業							作成責任者		
事業開始年月	令和4年7月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	地域交通課			大石 竜己		
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン）			事業費	事業費（円）	833,278	うち交付金充当額（円）	416,939		
事業目的	サロンや会食会など住民ボランティアが実施する地域福祉活動への参加について、移動が困難なことを理由に断念している高齢者に対し、デマンドバスにより送迎支援を行うことにより、高齢者の外出機会の確保・創出を図る。				 7/26出発式の様					
事業概要	住民ボランティアと市との協働による移動支援事業として、サロンや会食会など住民ボランティアの地域福祉活動として行う団体の高齢者等の外出支援について、自ら目的地に行けず、かつ、家族の支援や公共交通の利用が難しい人を対象に、市がデマンドバスにより送迎支援を行う。 【登録団体数】26団体 【利用団体・人数】延べ117団体・852名									
事業経費内訳	消耗品・燃料費	200,238円								
	自動車損害賠償責任保険料	201,740円								
	自動車借上料	431,300円								
	項 目				評 価					
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。				1：K P Iの達成に非常に有効であった					
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1：効率的かつ低コストであった					
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。				1：地方創生に非常に効果があった					
事業の評価	<p>足の問題を抱える高齢者を通いの場へ送迎を行うことで、高齢者の外出機会の確保・創出に寄与した。市内26団体が登録を行い、延べ117団体・852名の送迎を行った。</p> <p>利用者からは、「アシスト号ができ、通いの場へ再び行くことができるようになった」などの声をいただき、高齢者のいきがい創出にもつながっていることから、有</p>				今後の方針	<p>利用者アンケートの結果、利用者の73%は週2回以上の外出をしており、67%は介護保険サービスを利用していないということが判明したため、外出の習慣が介護予防につながることもうかがえる。サロン等外出の機会の創出による介護予防としての役割を担えるよう引き続き運行していく。</p>				

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	29
事業名	自家用有償旅客運送事業支援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年6月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	地域交通課			大石 竜己	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】 <small>(生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン)</small>			事業費	事業費(円)	164,600	うち交付金充当額(円)	82,300	
事業目的	自家用有償旅客運送の登録支援、事業費補助を行うことにより、住民主体の移動支援の取り組みの選択肢を充実させ、住民共助による足の問題の解決を図る。				 <p style="text-align: center;">登録証交付式の様子</p> 				
事業概要	住民主体の移動支援の取り組みのうち、事業継続性の確保等のため自家用有償旅客運送への移行を希望する団体の登録支援、補助金の支給による支援を行う。								
事業経費内訳	自家用有償運送事業費補助金 164,600円 (瀬戸谷買援隊運営委員会 補助率10/10)								
	項 目				評 価				
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。				1：K P Iの達成に非常に有効であった				
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1：効率的かつ低コストであった				
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。				1：地方創生に非常に効果があった				
事業の評価	1団体の有償運送への登録支援を行うことができた。有償運送へ移行することにより、運転者への賃金を支給できる等、事業継続性がより確保されやすい体制が整った。			今後の方針	足の問題の解決のための担い手創出、地域の実情にマッチした移動支援メニューの充実のため、引き続き自家用有償旅客運送の支援を行う。				

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	30
事業名	多世代交流型出かけっCARサービス支援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	地域包括ケア推進課			岡村 康成	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】(生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン)			事業費	事業費(円)	3,411,737	うち交付金充当額(円)	1,705,868	
事業目的	<p>高齢者の移動手段の確保及び閉じこもりの防止並びに介護予防を図り、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域づくりに寄与する。</p> <p>また、大学との連携により、大学生運転ボランティアを育成し、出かけっCAR運転手として活躍してもらうとともに、地域の高齢者との世代間交流による地域の賑わい創出を図る。</p>							 	
事業概要	<p>地域住民(地域の運転ボランティア等)の互助の力で、自動車運転免許の返納等により移動が困難となり、家族等からの支援が受けられない高齢者のための外出を支援(地域支え合い出掛けっCARサービス)を実施する地区社会福祉協議会、その他の地域の団体を支援するために、団体が使用するための自動車の貸出及び維持管理並びにボランティア保険及び自動車保険の加入及び保険給付の手続等の地域支え合い出かけっCARサービスの支援業務を市社会福祉協議会に委託して実施する。</p> <p>令和4年度は昨年度に引き続き4地区(西益津、葉梨、大洲、高洲)で運行が実施されている。合計で1,169回運行し、延べ3,148人の利用があった。</p>							<p>利用者の乗車を手伝うボランティア</p> <p>利用者の買い物の様子</p> 	
事業経費内訳	<p>需用費： 68,137円</p> <p>委託料： 3,343,600円(3,807,700円のうち)(交付先：社会福祉法人藤枝市社会福祉協議会)</p>							<p>運転講習の様子</p>	
	項目							評価	
事業の有効性	全体の成果目標(KPI)の達成に資するために有効な事業であったか。							2：KPIの達成に有効であった	
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。							1：効率的かつ低コストであった	
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生(しごととひとを継続的に呼び込む)に有効であったか。							2：地方創生に相当程度効果があった	
事業の評価	地区社会福祉協議会と地域住民を中心に、買い物支援を通じて介護予防の推進を行うことができたという点において、ひとの流れを創る上で今後につながるものと考えられる。主に近隣のスーパーマーケットやドラッグストアの運行を実施するほか、地域で実施しているサロン等への送迎も行っている。コロナ禍でも感染防止対策を徹底して実施し、利用者からは好評を得ている。			今後の方針			<p>事業を継続して実施できるよう、ボランティアの安定的確保に向けた取り組みが必要である。地区社会福祉協議会と連携し、地区内外への情報発信に取り組みたい。また、大学との連携により、大学生運転ボランティアを育成することで、運転手確保の課題を解消するとともに、世代間交流による地域の賑わい創出を図る。</p> <p>事業の充実を図るとともに、新規で実施する地区の拡大のため、引き続き市社会福祉協議会と地区社会福祉協議会と連携し、事業を推進していく</p>		

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート								事業No.	31
事業名	買い物支援サービス応援事業							作成責任者	
事業開始年月	令和4年4月	事業終了年月	令和5年3月	担当課	商業振興課			岩谷 遼平	
交付金名	デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】（生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン）			事業費	事業費（円）	1,300,000円	うち交付金充当額（円）	650,000円	
事業目的	高齢者を中心とした買い物に困難を抱える方の利便性を向上させるため、買い物環境改善に取り組む民間事業者等を支援し、買い物しやすい商業地づくりの実現を目指す。				移動販売事業の様子				
事業概要	<p>高齢者などの買い物に困難を抱える人の利便性向上につながる民間等の次の取組を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配達可能な店舗の情報等の収集及び周知事業 ・市内新聞配達業者と弁当・惣菜店が連携したデリバリー事業 ・スーパーとの連携による移動販売事業 								
事業経費内訳	<p>補助金合計額：1,300,000円 補助率2/3</p> <p>【交付先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野口正人（とくし丸、個人事業主） 500,000円 ・株式会社藤枝江崎新聞店 500,000円 ・藤枝居酒屋グランプリ実行委員会 300,000円 								
	項 目				評 価				
事業の有効性	全体の成果目標（K P I）の達成に資するために有効な事業であったか。				2：K P Iの達成に有効であった				
事業の効率性	事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。				1：効率的かつ低コストであった				
事業の総合効果	本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。				1：地方創生に非常に効果があった				
事業の評価	高齢者や新型コロナウイルス感染症の影響で増加した買い物困難者に向け、団体ごと強みや繋がりを活かした事業が実施され、買い物環境の改善が図られた。買い物困難者の利便性向上に加えて、商品を選ぶ楽しさやお店の味を自宅で味わうなど、買い物困難者の生活の質の向上にも寄与するものであったと考える。			今後の方針	当該事業自体や支援する団体が行う事業について、引き続き周知に努めていく。				

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金【推進タイプ】事業評価シート

事業No. 32

事業名 外国人への日本語講座実施事業 作成責任者

事業開始年月 令和4年4月 事業終了年月 令和5年3月 担当課 男女共同参画・多文化共生課 水野 圭子

交付金名 デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生推進タイプ） 事業費 事業費（円） 1,158,260 うち交付金充当額（円） 579,130

事業目的
外国人住民との共生にあたって、生活ルールの理解不足や文化・習慣の違いを課題と感じる日本人住民は少なくない。特に日本語能力が十分でない外国人住民は、必要な情報を得ることが難しく、制度やルールの理解不足から誤解や偏見につながることもある。日本語の習得は生活上欠かせないものであることから、日本語と生活ルールを学ぶ機会の提供をし、理解を促進することで、共生社会の実現を目指す。

事業概要
日本語が不自由で地域社会への参画や就労に不安がある外国人を対象に、生活に必要な日本語を中心に指導。また日常生活や日本文化を紹介する。
開催時期 毎週土曜日 午後7時～8時30分 3期 計49回
会場 藤枝市文化センター
授業内容 3クラス体制（初級・中級・上級）
各クラスに日本人講師が1名（計3名）+アシスタント1名

事業経費内訳
講師謝礼 1,042,000円
講師等旅費 116,260円

The content of this block includes a flyer for the Japanese classes, a calendar for the 2022-2023 period, and a map of the Cultural Center. The flyer details the course structure, including Japanese Language Class, Clases de Japonés, Curso de Japonés, and a Vietnamese class. The calendar shows the schedule for the first, second, and third periods. The map shows the location of the Cultural Center in Fujieda City.

項目 評価

事業の有効性 全体の成果目標（KPI）の達成に資するために有効な事業であったか。 2：KPIの達成に有効であった

事業の効率性 事業実施にあたり、効率的かつ低コストで実施できているか。 1：効率的かつ低コストであった

事業の総合効果 本事業は、本市が目指す地方創生（しごととひとを継続的に呼び込む）に有効であったか。 1：地方創生に非常に効果があった

事業の評価 日本語が不自由なことによる日常生活の不安等が改善され、コミュニティへの参画を促すことができた。コロナによる感染拡大の規制緩和により参加者も増え、共生社会の実現を目指すことができた。

今後の方針 引き続き講座を実施し、日本語の不自由な外国人を対象に、日本語教育や日本文化や自治会活動などについて理解を促し、共生社会を推進していく。